

興亜ナカヨシスゴロク

1941(昭和 16)年 1 月 1 日

『幼年倶楽部』16 巻 1 号付録。絵は大槻さだを。

総力戦体制が本格化すると、日常のあらゆるものが戦争に関連する内容となっていき、その影響は子供たちの玩具にまで及んだ。



この資料は、『幼年倶楽部』という子ども向け雑誌の付録の「まわりすごろく」です。それぞれのコマには、バナナを取る子ども、剣道の稽古をする子ども、羊の見張りをする子どもといった、アジアの国々の子どもたちの様子が描かれています。このすごろくは、アジアの勢力を盛んにしようとする「興亜」のため、子どもたちにも、アジアの結束を強めることを印象付けているようです。

この資料から、戦時中の日本では、大人向けのマスメディアのみならず、子ども向けの出版物や玩具にも、当時の世界情勢や政策が反映されていたことがわかります。少しずつ戦争に組み込まれていく子どもたちの姿を、こうした資料から読み取ることができるように思います。情報や教育が、人々の意識に与える影響の大きさを改めて感じさせられます。

ミュージアム学生スタッフ 青島繭